

Webテストの層別配信による 基礎学力向上と学習習慣の改善・進化

私立

高校

共学校

栄徳高等学校

学科：特進コース、進学コース（2015年度まで）

スーパー文理コース、総合進学コース（2016年度より変更）

規模：1276名（男子859 女子417）1年生 426名 2年生 409名 3年生 441名（2017年度）

主な進路状況：名古屋工大 3名、富山大1名、山梨大1名など 国公立大15名合格（2016年度）

青山学院大1名、法政大1名、関西学院大2名、関西大1名、立命館大3名など

4年制私立大265名合格（2016年度）



- > 取り組み
 - WebテストのGTZ別の課題配信で、基礎学力向上と学習習慣の改善
 - 学習記録で、自主学習の時間と内容を主体的な学習へ誘導
 - 学習動画のリコメンド機能を活用した学習習慣の進化

急速なICT化ではなく、自校に適した機能に絞ってClassiの活用をスタート

————— 貴校は2016年度からClassiを導入し、ICTの活用に取り組みられています。導入に至る背景をお聞かせください。

井上先生 本校がICTの活用を検討し始めたのは、2015年の秋からです。センター試験廃止後の新テストに、「CBT方式」(Computer Based Testing)の導入が検討されていることもあり、また、それに対応した基礎学力を向上したいという考えがありました。

「ICT化＝ハード面の機材導入」が頭に浮かびますが、現実的に新しい機材を一度に導入するには多額の費用がかかりますし、「それを本当にうまく運用できるのか」という不安も出てきます。そこで、まずはハードではなくソフト面でClassiを導入し、教員がICTの活用に慣れることからスタートさせることにしました。

————— 具体的にどのような活用から始めたのでしょうか。

井上先生 Classiは非常に多機能なサービスですが、

井上先生 最初からすべてを使いこなすのではなく、本校の状況にあった機能に特化して活用すれば良いと考えていました。そこで、最初に活用したのがWebテストです。2016年度は、進学コースの1、2年生全員に英語、数学、国語の問題を毎日配信し、取りませました。この取り組みを始めたのは、「毎日の宿題で学習習慣を身につけさせたい」という考えがもともとあったからです。一部の教科では以前から実施していましたが、プリント教材の場合、1週間分の課題の印刷や配布、回収・点検が、担当教員の大きな負担になっていました。Webテストを活用するようになってからは、この作業にかかる手間をかなり削減できています。

また、実際に運用を始めて感じたメリットの1つに「スキマ時間の有効活用」という点が挙げられます。課題を紙に印刷していた時は、それなりにまとまった時間がないとプリントアウトができませんでしたが、Webテストの場合は配信予約が可能なので、15分程度あれば、1～2日分の課題の準備ができるようになりました。

生徒が使うデバイスはどのようなものですか。

井上先生

特進コースの生徒(1学年2クラス40名)には、学校からタブレットを貸与しています。また、特進コースの教室はWi-Fi環境になっています。そのほかの生徒は、個人のスマートフォン(以下、スマホ)を利用しています。スマホを持っていない生徒、自宅にネット環境が整っていない生徒には、従来通り、プリントアウトした問題を配布しています。昨年度の1年生の場合、スマホを所有していない生徒は7名程度でした。また、導入開始1年目の夏休みに、校内の自習室(70名収容)、図書館(40名収容)、視聴覚室(90名収容)もWi-Fiを使える環境に工事をしました。加えて、貸出用のタブレットを50台用意しています。自宅にWi-Fi環境がない生徒の中には、これを利用して放課後、学校で宿題に取り組む者もいます。

GTZ別の課題配信で、層別指導の実現を試みる

導入初年度の夏休みからは、配信の方法を変えたとお聞きしています。

井上先生

ICT導入のそもそもの目的のひとつに「アダプティブラーニング※1の実現」がありました。夏休みの時点で、我々教員もある程度運用に慣れてきたこともあり、Webテストを使って学力層別に問題を配信するというやり方を試してみました。具体的には、スタディーサポートの結果を踏まえ、GTZ(学習到達ゾーン)別に、英語、国語、数学の3教科の課題を配信しました。当初は、1年生400人に対して15段階×3教科の校内グループを作成し、それぞれに問題を配信する予定でしたが、細かく学力層別に配信するのが難しかったので、最終的に4段階×3教科のグループに分けて、課題を配信しました。

これにより、生徒一人ひとりの学力にあった課題に取り組ませることができ、また、取り組み状況も把握できるので、進捗管理だけでなく声掛けにも役立っています。この取り組みはこれまでのプリント教材では実現できなかったと思います。

※1 アダプティブラーニング
個々の生徒の進捗にあわせて学習内容・学習レベルを調整し問題を提供すること。または、その仕組み

| タイトル | 配信者 | 最終配信日 | 最終配信先 |
|-------------------------------|-----|------------|-------|
| 10分-雑刊-自己採点(2)-8問 | | 2016/07/19 | A-1 |
| 10分-不定代名詞(14)-8問 | | 2016/07/19 | A-2 |
| 10分-指示代名詞(2)-8問 | | 2016/07/19 | A-3 |
| 10分-人称代名詞(5)-8問 | | 2016/07/19 | B-1 |
| 10分-名詞の複数形(2)-8問 | | 2016/07/19 | B-2 |
| 10分-名詞の複数形(1)-8問 | | 2016/07/19 | B-3 |
| 10分-S + V + O + C(3)-8問 | | 2016/07/19 | C-1 |
| Classiチャレンジ_基礎力診断(11)_英語_動動詞 | | 2016/07/19 | C-2 |
| Classiチャレンジ_基礎力診断(11)_英語_一般動詞 | | 2016/07/19 | C-3 |
| Classiチャレンジ_基礎力診断(01)_英語_疑問詞 | | 2016/07/19 | D-1 |
| Classiチャレンジ_基礎力診断(01)_英語_助動詞 | | 2016/07/19 | D-2 |
| Classiチャレンジ_基礎力診断(01)_英語_一般動詞 | | 2016/07/19 | D-3 |

▲GTZ別に4つのグループに分けて配信することで、Web上での習熟度別学習を実現 (Webテストの配信画面)



▲GTZ別にWebテストを検索する事で、学力レベルに合ったテストが配信可能 (Webテストの検索画面)

Webテストを使った課題配信の成果を教えてくださいませんか。

井上先生 毎日、3教科の宿題が出せるようになったことで、基礎学力の向上もそうですが、低学年時から学習習慣が改善してきたという点が大きな成果だと思います。1年生の中には「中学生までは、塾が校外学習はすべてだった」という生徒もいて、家庭での自主学習の習慣がついていない者も多く見られましたが、Webテストを導入したことで、「期限までに解答する」という締切意識が芽生え、今ではだいぶ習慣化し、学習のサイクルとして定着しつつあります。

また、紙ではなく、Webだからこその変化として、通学時間や授業の合間の時間など、スキマ時間を有効活用する生徒も多く見られるようになりました。Webならではのいつでもどこでも取り組める手軽さと、締切意識との相乗効果で、生徒一人ひとりの学習習慣と学力が着実に向上しています。

特進コースは学習記録を使い、自主学習の振り返りを習慣化

——— 特進コースでは、別なアプローチでClassiを活用されているようです。どのように活用されているのでしょうか。

井上先生 特進コースの生徒の場合、毎日の家庭学習は前提となるので、学習記録の機能を活用し、「日々の学習を自分自身でコントロールさせること」をテーマに置いていました。本校には「夢手帳」という学習記録をつける手帳があります。この手帳の場合、学習時間は記録できるのですが、記入スペースが狭いため具体的な学習内容を書くのが困難でした。

Classiの学習記録は、学習内容まで記入できるので、これを活用して生徒に自分の学習を管理させるようにしています。また、記録を残すことが目的ではなく、履歴を見て自分の学習の振り返りをし、改善につなげることが重要だと思っています。昨年度の1年生に関しては、進研模試の成績が回を追うごとに伸びていきましたが、これは学習の振り返りの習慣ができてきたことも要因ではないかと考えます。

加えて学習記録にはコメント機能もあり、生徒本人が「今日は教科のバランスが悪かった」など、日々の反省を書いてきます。それに対して教員側がすぐにフィードバックできる点も有効だと思います。

クラス全体に朝、教室に来たらまずClassiにログインして学習記録を付け、それが終わったらホームルームまで学習動画を見るという習慣が定着することを期待しています。



▲学習記録を使い学習時間を残すことで、学習習慣の定着につながっています

| 年度 | 2016 | 2016 | 2016 |
|--------|--------|---------|--------|
| 学校名 | 栄徳・特進 | 栄徳・特進 | 栄徳・特進 |
| 学年 | 高校1年生 | 高校1年生 | 高校1年生 |
| 回 | 1年7月記述 | 1年11月記述 | 1年1月記述 |
| コース・科目 | 国数英総合 | 国数英総合 | 国数英総合 |
| 受験人数 | 40 | 38 | 37 |
| 平均点 | 109.8 | 123.5 | 146.8 |
| 標準偏差 | 27.4 | 21.8 | 35.8 |
| 平均点偏差値 | 51.7 | 54.3 | 55.9 |
| 満点 | 300 | 300 | 300 |

▲Webテストと学習記録を使った取り組みで、夏休み後の進研模試の結果に効果が表れはじめています

Webテストを使った層別指導から学習動画を使った個別指導へ

——— 導入2年目の今年から、さらに活用を進展させているとお聞きしました。

井上先生 1年次のWebテストを使った宿題配信により、学習習慣を定着させることができたので、2年次では、よりアダプティブに自主的な学習を促すため、学習動画による学習に切り替えました。我が校では、第1回のスタディーサポートを実施しているので、生徒一人ひとりの成績に基づいて、復習すべき単元がリコメンドされる学習動画を使って、動画を視聴し、問題に取り組むという学習を始めました。

リコメンド動画の取り組みによって毎日学習する習慣がついていたので、学習動画では、明確な期限を設けず、生徒それぞれのペースで進めさせています。教員は折をみて進捗を確認し、声掛けするようにしています。なかには、リコメンドされる問題をすべて解き切ってしまう生徒もいました。

この取り組みは、1年次にWebテストを通じて学習習慣が改善していたからこそ、生徒に自主的に学習させても、取り組むことができたのだと思います。おそらく、いきなり自主的な学習に取り組ませても、ここまでの成果は厳しかったと思います。

現段階では、スタディーサポートの振り返りとして学習動画を活用していますが、今後の展開としては、いろいろと試しながら、Classiを活用した「進研模試」のPDCAサイクル確立にまで発展できないかと考えています。

ベネッセの基礎診断テスト、スタディーサポートの結果からGTZ（学習到達ゾーン）を表示しています。

英語

| | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 D 文法 比較 取組状況: 12/12 | 2 C 文法 準動詞 取組状況: 12/12 | 3 C 文法 関係詞 取組状況: 12/12 |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|

もっと見る

数学

| | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 C 数A 場合の数 取組状況: 12/12 | 2 B 数I 1次不等式 取組状況: 12/12 | 3 A 数I 集合と命題 取組状況: 12/12 |
|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|

もっと見る

国語

| | | |
|--|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 D 現文 小説読解に必要な知識 取組状況: 12/12 | 2 C 漢文 反語形 取組状況: 12/12 | 3 C 現文 読解素材 取組状況: 12/12 |
|--|---------------------------------|----------------------------------|

もっと見る

▲学習マップで、取り組み状況を確認することができ、リコメンドされた問題をすべて解き切ってしまう生徒もでています

▼学習動画の一人ひとりの取り組み状況が確認できるので、声掛けが必要な生徒にいち早く対応

学校全体で組織的にICTを活用する

- 入学当初はスマホを学習に使うことに戸惑いを感じている生徒もいたが、今はICTで学習することに対する抵抗感がなくなっている。また、生徒以上に戸惑いを感じていた教員側の意識にも、ICTの活用が浸透してきた。
- 昨年度の特進コースの1年生に関しては、進研模試（1年7月回→11月回→1月回）の成績がすべての層で向上している。この結果は、Classiを使った学習時間・内容の記録→振り返り→修正の習慣ができてきていることも一因だと考える。

<お話を伺った先生方>

- Classiの生徒カルテは、2、3年次の進路指導に有効活用できると考えている。現段階で学習記録を活用しているのは特進コース だけなので、パイロットケースとして特進コースに運用してもらい、順次、他のクラスや学年の生徒にも展開していきたい。
- 教育現場は今後、間違いなくICT化の波に乗らなくてはならない。できることなら本校も、全学年、全クラスでタブレットを使える状態まで環境を整備したい。今は、そうした環境が整ったときに一気に走り出すための、準備・発展段階だと捉えている。



井上智広先生（進路指導部長）



浅野悠先生（進路指導部）

成果

今後に向けて